

展覧会企画

刷り絵の時代—版画にみる文明開化

期日 2017年10月14日（土）—12月18日（月） 金曜～月曜のみ開廊（火曜～木曜休み）

会場 山鬼文庫 <http://www.sankibunco.com/>
 金沢市桜町 5-27 tel.076-254-6596

展覧会趣旨

1867年明治維新を境に日本は急速に欧化の路をたどります。街並み、交通、衣服、文化とあらゆる領域で劇的な変化が起きました。これらの新機軸は人々の関心の的であり、ジャーナリズムの格好の題材となり、当時の身近な視覚メディアであった版画によって流布しました。これらの創作版画以前の版画は青木茂によって「刷り絵」と命名されています。こうした新しい時代相をとらえた版画や挿絵などの作品を山鬼文庫所蔵品からご紹介し、新しい時代を迎えた人々の眼差しと熱気とを感じ取って頂きたいと存じます。

主な展示作品



小林清親《明治十年勸業博覧会瓦斯館之図》1878



《第3回内観会場式》1890



大島智三郎《大日本国会議事堂》1892



《故大村兵部大輔銅像真図》1893



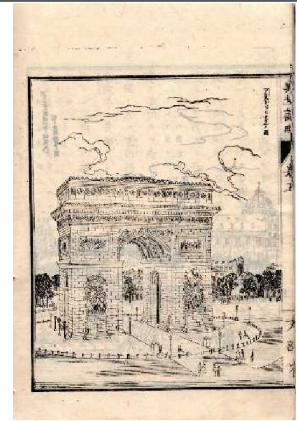
《大阪中之島公園秀吉銅像》1901



後藤貞行《馬パリス》



国政《開運橋ハウス・東京開化名美観》



川上冬崖《凱旋門》1870

関連事業 金沢のカルチャーシーンを語る (4) 金沢の近代美術史発掘

カルチャーシーン 4 回目は近代がテーマです。金沢では、百万石神話の威光と現代作家の陰に隠れがちだった近代は永く未開拓の分野でした。これを主要なテーマとして作品調査や展覧会企画として成果をあげてこられたお二人にご自身の体験をもとにお話しいたします。

11月11日(土) 午後1時30分より

山崎達文(金沢授学院大学教授)「金沢で近代を集める」

卯辰山工芸工房ギャラリー収蔵作品の収集を中心に、近代金沢の工芸作品のありかと収集についてお話しいたします。

11月25日(土) 午後1時30分より

本康宏史(金沢星稜大学教)「金沢で近代を調べる」

「昭和モダン」展を始めとする石川県歴史博物館における近代金沢をテーマとする展覧会の調査と歴史的な評価についてお話しいたします。